

(別紙様式4)

新潟工科専門学校  
工業専門課程・ものづくり工学科  
別紙様式4の書式の訂正

平成28年5月1日

## 職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地		
新潟工科専門学校		平成5年12月6日	仁多見 透		〒950-0932 新潟市中央区長潟2-1-4 (電話) 025-287-3911		
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地		
学校法人 国際総合学園		昭和32年10月22日	理事長 池田 弘		〒951-8065 新潟市中央区東堀通一番町494番地3 (電話) 025-210-8565		
目的	2次元・3次元CAD操作を身に付けながら、工業製品や部品を中心に図面の読み方、書き方を習得し、旋盤、NCフライス盤などを使って機械・機構部品などの加工法を学ぶこと、豊かな発想力で付加価値の高い商品開発能力を身に付けることが目的である。						
分野	課程名		学科名		専門士		高度専門士
工業	工業専門課程		ものづくり工学科		平成19年文部科学省 告示第20号		-
修業年限	昼夜	総授業時数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1776	528	208	1040	0	0
単位時間							
生徒総定員		生徒実員		専任教員数	兼任教員数		総教員数
60人		9人		2人	6人		8人
学期制度	■前期: 4月1日から9月30日 ■後期: 10月1日から3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 100点満点換算で、A(100~80)、B(79~70)、C(69~60)、D(60未満)、期末考査・提出課題・授業態度により評価		
長期休み	■夏 季: 3週間 ■冬 季: 2週間 ■春 季: 2週間			卒業・進級条件	100点満点換算で、A(100~80)、B(79~70)、C(69~60)、D(60未満)、期末考査・提出課題・授業態度により評価		
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 定期的に状況確認、また、その状況に合わせ指導・アドバイスを行う			課外活動	■課外活動の種類 各種ボランティア、地域活性化のための活動 ■サークル活動: 無		
就職等の状況	■主な就職先、業界等 製造業(メーカー)他 ■就職率 <sup>※1</sup> : 100% ■卒業者に占める就職者の割合 <sup>※2</sup> : 93.8% ■その他 (平成 27 年度卒業者にに関する 平成28年5月1日 時点の情報)			主な資格・検定等	CADトレース技能審査 (初級・中級) ガス溶接技能講習		
中途退学の現状	■中途退学者 1名		■中退率 4.6%		平成27年4月1日 在学者 22名 (平成27年4月1日 入学者を含む) 平成28年3月31日 在学者 21名 (平成28年3月31日 卒業者を含む)		
	■中途退学の主な理由						
	病気						
■中退防止のための取組							
担任制・スクールカウンセリング体制の採用							
ホームページ	URL: <a href="http://www.nit-web.net">http://www.nit-web.net</a>						

※1「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」の定義による。

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとする。

②「就職率」における「就職者」とは、正規の職員(1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいう。

③「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

(「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。)

※2「学校基本調査」の定義による。

全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。)

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針を次のとおりとする。

1. ものづくり工学科は「ナンバーワンの技術とオンリーワンの商品開発」をコンセプトとして掲げている。その為、あらゆる方面からの有識者、技術者の参画を基本として組織する。
2. 企業や業界団体からはものづくり創造工学科の特性から次の分野からの参画を図る。
  - ◆工業系の技術支援機関(新潟県工業技術総合研究所)
  - ◆ソフト開発、データ作成、受託加工、技術コンサルティング企業(ファインデータ)
  - ◆発想力でものづくりのサービス、技術、情報、文化の創造を支援する企業(めだかの学校)
3. ものづくり工学科の目指す人材像、目標資格、カリキュラムの相互理解に努める。
  - ◆ものづくり工学科は確かな生産技術と高付加価値ものづくりが出来る人材育成を目指すことへの理解。
  - ◆ものづくり工学科で取得すべき技術・技能・創造力を理解。
  - ◆ものづくり工学科のカリキュラム内容を理解。
4. ものづくり工学科の目指す人材像を理解すると共に、各分野の専門企業・団体の立場から現在及び将来求められている職業人としての資質をカリキュラム編成に反映する。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成27年9月30日現在現在

名 前	所 属
仁多見 透	新潟工科専門学校 教務部
細海 幹人	新潟工科専門学校 教務部
池田 保紀	新潟工科専門学校 事務局
多田 剛史	新潟工科専門学校 教務部
坂井 朋之	新潟県工業技術研究所 下越技術支援センター
湯田 博	(有)ファインデータ
油井 康二	(株)めだかの学校

(開催日時)

平成27年度開催状況

第1回 平成27年8月6日 10:00~12:00

第2回 平成27年9月11日 10:00~12:00

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

教育課程編成委員会の意見をもとに改善されたカリキュラムで、その分野で現在活動している専門技術者を有する企業から派遣された講師により直接指導を受ける。それにより、最先端の技術を身に付け、社会が求めている職業人としての能力と人間力を修得することを基本方針とし、以下の手順で連携を進めていく。

1. 企業から派遣された知識・技術・経験を有する専門技術者が指導にあたる。
2. 学校の教育方針と社会のニーズを明確にし、授業内容を検討する。
3. 授業開始前にシラバスを作成し、学生に伝達する。
4. 学生の個々のニーズ(学生が目指す職種)に応じた指導を心がける。
5. 評価について、担当専任教員と協議し学生へフィードバックする。
6. 評価をもとに学生に対しアドバイスをすることで今後の学修に繋げる。
7. 結果を分析し、教育課程編成委員会へフィードバックし、カリキュラム編成に役立てる。

科目名	科目概要	連携企業等
知的財産	知的財産の基礎知識の習得とそれを実際のモノに表現しパテントとしてまとめるに至るまでを学習する。その成果物をパテントコンテストなどに参加するまでをこの演習とする。	(株)めだかの学校

<b>3. 教員の研修等</b>	
(教員の研修等の基本方針)	
<p>教員(専任教員、兼任教員)は常に企業等と連携し、専門分野における最新の知識と技術の習得に向けて次のようなことを基本方針とする。</p>	
<p>1. 年度が始まる前に身に付けたい知識・技術など以下の項目から目標設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆機械加工技術(切断、プレス、旋盤、板金溶接)</li> <li>◆CAD操作技術(2次元、3次元)</li> <li>◆設計技術</li> <li>◆商品開発知識(マーケティング、プロモーション、ブランディング)</li> <li>◆知的財産知識(発想力、知的財産管理技能、特許権、意匠権)</li> <li>◆学校運営における基本的知識(学生指導、人材育成、経営意識など)</li> </ul>	
<p>2. 事前に年間行われる研修・セミナーなどの調査を行う。</p>	
<p>3. 研修・セミナー受講スケジュールを計画する。(計画については教務部に提出)</p>	
<p>4. 研修・セミナー受講後は学生指導、学科運営にどのように活かせるか検討する。</p>	
<p>5. 研修・セミナーで得た知識や情報を他の教員と共有し学校全体での学生指導に活かす。</p>	
<b>4. 学校関係者評価</b>	
(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)	
平成27年9月30日現在	
名 前	所 属
小倉 睦巳	(株)国際総合計画
荻荘 賢一	(株)荻荘電機
平田 俊之	金井度量衡(株)
油井 康二	(株)めだかの学校
近藤 一彦	(株)イートラスト
(学校関係者評価結果の公表方法)	
<p>URL:<a href="http://www.nit-web.net">http://www.nit-web.net</a></p>	
<b>5. 情報提供</b>	
(情報提供の方法)	
<p>ホームページ、学生の手引き、パンフレット、募集要項、求人のための学校案内、オリエンテーション資料、キャンパス周辺ガイド、各種奨学金制度・教育ローンのご案内、学生寮アパートガイド、</p> <p>URL: <a href="http://www.nit-web.net">http://www.nit-web.net</a></p>	

授業科目等の概要

(工業専門課程ものづくり工学科) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			材料力学	材料力学の概要、荷重と応力、応力とひずみ、材料の使用範囲、熱応力、内圧を受ける円筒と球、骨組み構造、曲げ、はり、ねじり、組合せ応力、座屈など	1 2通	128		○			○			○	
○			機構学	機構の基礎、リンク機構の種類と運動、カム機構の種類と運動、摩擦伝動の種類と運動、歯車伝動機構の種類と運動、巻き掛け伝動の種類と運動など	1 前	32		○			○			○	
○			機械設計	機械設計の概要、機械の強度と材料、機械加工と設計、ねじを使う設計技術、軸と軸受を使う設計技術、歯車機構の設計、シール装置の設計技術、市販部品を利用する設計など	1 後	32		○			○			○	
○			機械材料	機械材料の性質、鉄鋼の製造、鉄鋼の種類と成分、鋼の熱処理、用途別の各種鋼、非鉄金属材料と非金属材料、特殊材料	1 通	32		○			○			○	
○			ものづくり発想法	商品企画・立案・デザインに必要な発想法を学び、「創造する力」を養う。スケッチによる平面表現を習得し、自らの考えるアイデアを他者と共有できるようにする。	1 2通	192		○			○			○	
○			電子制御	電子回路の理論と制作、リレ - 回路の回路図と制作、シ - ケンサ ( P L C ) 制御回路の回路図と制作など	2 通	96		○			○			○	
○			知的創作演習	特許について学び、実際にパテント案を考え、コンテスト等に出願し、理解を深める。	集中講義	16					○			○	○
○			CAD製図	図面の基礎を中心に見方、描き方をJIS規格に基づき演習をし、CAD操作習得と同時に、簡単な図面が描け、それとともに図面のいろいろな記号を理解できるようにする。	1 2通	192					○	○		○	
○			3D-CAD実習	ソリッドワークスを使用して部品の作成や組立ができるようになる。 3次元CADによる設計手法の初歩がわかるようになる。	1 2通	144					○	○		○	
○			加工実習A	旋盤加工実習、フライス盤加工実習、小型NCフライス盤加工実習、総合的な加工による作品の製作	1 2通	192					○	○	○	○	○
○			加工実習B	金属加工の基礎、弓鋸による切断、研削、ドリルによる穴加工、ヤスリ加工、アーク溶接による接合を修得し、金属部材の集合体となる作品を全員で製作する。	1 2通	192					○	○		○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			分解組立実習	機械がどんな部品から構成されるか具体的に観察し、機構学／機械設計の学習に役立てる。身の回りの機械・器具が、どの様な構造であるかを知り、設計手法と組み立て手法を学ぶ。	1前	32			○	○		○			
○			卒業課題	課題に対して、設計、製作、レポート作成、プレゼンを実施し、2年間のまとめに値する科目。	2通	160			○	○		○			
○			工業物理	専門分野の基礎となる物理の力学分野を学習する。	1通	64		○			○			○	
○			基礎数学	専門分野の理解に必要な数学の基礎を学習する。	1通	64		○			○			○	
○			就職実務	業種・職種について、求人票の見方、履歴書の書き方、面接の仕方、コミュニケーション技法、一般教養など	1 2通	80		○			○		○		
○			OA実習	Excel、Wordの習得など	1通	64				○	○			○	
○			IT実習	Wordの応用、PowerPointの基礎知識など	2通	64				○	○			○	
合計					18 科目		1776 単位時間(単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1 学年の学期区分	2 学期
	1 学期の授業期間	16 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。